

2023年度版 岐阜県 自然共生工法研究会

Gifu study group for nature symbiotic method of construction



「入りたいっ！」 竹原川(下呂市竹原地内 左:下流から 右:上流から)

巨石を用いて自然を模擬する石組工法を取り入れた河道改修によって、床止めと魚道の両方の機能を発揮する落差工が設けられました。実際、周辺と調和した不自然さを感じさせない景観が創出されていて、まさに「入りたい！」と感じさせられます。魚の行き来に加えて移動先の生息環境も良好なことのわかる、優れた自然共生工法の写真です。



「清水川と桜」 清水川(岐阜市加納清水町)

水際の緑に満開の桜の彩りが自然の素晴らしさを巧みに表現していて、都市の中に潤いをもたらす親水河川の良好な景色に撮影者の清水川への思いが表れています。緩弯曲の小川に沿う遊歩道や水際の護岸・石積みが桜の脇役という写真の構図も自然共生工法の一つの姿です。

「北小木川とホタル」 北小木川(多治見市北小木町)

河道背後の豊かな樹林が静かな水辺環境をもたらすとともに街灯の光を遮り、写真のように、多くのホタルが夕べの活動を繰り広げています。地域と一体となった河川整備、景観保全、環境復元が小川の空間構造の多様さを保ち、カワニナを好むホタルの乱舞をもたらしています。

令和4年度「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト 最優秀賞作品(上段) および 優秀賞(下段2作品)

ごあいさつ 「清流の国ぎふ」づくりに資する自然共生工法の発展と活動の充実に向けて



会長 藤田 裕一郎
(岐阜大学・名誉教授)

岐阜県自然共生工法研究会は、岐阜県の優れた生物相を支える水と緑に恵まれた県土の自然を保全・復元し、豊かな生態系を次世代に引継いでいくという目標を掲げて、21世紀最初の2001(平成13)年12月に設立され、岐阜県が進める「自然の水辺復活プロジェクト」に「産・学・民・官の協働」で取り組み始め、令和5年5月31日現在、法人172団体、個人1,317名の会員が自然共生の将来を見据えた活動を続けています。

「自然の水辺復活プロジェクト」は、全ての生きものにとってなくてはならない「水」の豊かさが「自然との共生」の根源にあることから「水辺」に着目して、「ものづくり」「人づくり」「現場での研究」「産学民官の協働」という4つの施策により、建設事業の現場を中心に県下の自然環境の創出や保全を効果的に進める取組で、「清流の国ぎふ」づくりに資するべく、様々な活動が続けられてきています。背景には、「多自然型川づくり」を嚆矢とする河川環境の保全再生事業に先駆けて、岐阜県が「自然共生川づくり」の実践研究に取り組んできた長い歴史があります。

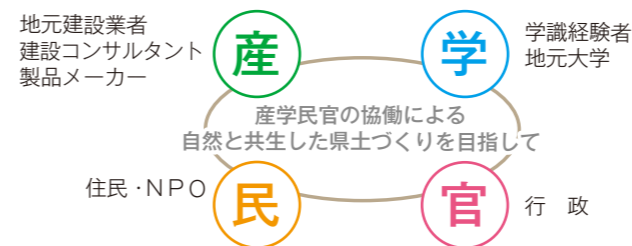
自然共生工法研究会設立の趣旨

自然環境に対する関心が高まる中、岐阜県においても産業界、学界、地域住民、行政の立場から自然との共生をテーマに様々な取り組みが進められています。

しかし、従来は相互の情報交換が不足していたり、十分な連携が取りにくい等、十分な効果がなかなか得られませんでした。

このような状況を改善するためには、産学民官が連携して、同じ枠の中で問題意識を共有し、現場で実践していける仕組みづくりが必要であり、既存の枠にとらわれない柔軟な組織が必要でした。

自然共生工法研究会は、この趣旨に則って、水と緑があふれ、多種多様な生物を育む自然豊かな岐阜県土の保全・復元を図り、次の世代にすばらしい県土を引き継いでいくために、産学民官の協働による自然と共生した県土づくりを目指して設立されました。



自然の持つ環境機能の重要性について世間の関心が高まりつつあったとはいえ、経済性や施工性に主眼が置かれていた当時の建設工事の現場に、まだまだ一般に馴染みの薄かった「自然との共生」を意識した技術や工法をこのプロジェクトを通じて浸透させようと思われました先人の先見性には頭が下がります。県下の水辺は、河川ばかりでなく、各種の水路、ため池やダム貯水池、また一時水域となる稲田に沿って広がっています。生物相がどんどん貧弱になっていく状況に強い危機意識を抱かれた先人の想いに敬意を表しつつ、そのような水辺にも自然さが戻ってくるよう種々工夫を加えて参ります。

人類の持続的な発展には安全で豊かな人間社会を築くべきとしたSDGs、その基盤となる多様な生物相を有する良好な自然環境を支えるためのグリーン成長戦略やグリーンインフラ、さらに、30by30、Nature Positiveなどの新たな取組にも、また、恵みを与えてくれる優しい自然ばかりでなく、激甚化・頻発化する自然災害「荒ぶる自然」への適応を図る「流域治水」にも、自然共生の観点からの協力が必要であり、本研究会の担うべき役割は今後も大きいと考えております。県内外の皆様におかれましては、本研究会にご関心をお持ち下さり、種々の活動にご理解・ご支援下さいますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

「清流の国ぎふ」づくり

岐阜県内の豊かな森林から生み出される水は、全国有数の美しさを誇る川から海に通ずる清流となり、豊かな海を育むとともに、岐阜県民に様々な恩恵をもたらしてくれます。県では、この清流を「守る」「活かす」「伝える」を柱に掲げ、清流を後世に残していけるような「清流の国ぎふ」づくりを推進しています。

「3つの柱」と「10の施策」(研究会に関係する部分)

1 清流を守る

- ①生物が棲めるきれいな水を守る
- ②自然と共生した川をつくる
- ③「水みち」の連続性を確保する
- ④水を蓄え、土壌が流出しにくい山をつくる

2 清流を活かす

- ⑤森・川から生まれる環境価値を活かす
- ⑥森・川が育む豊かな自然環境を活かす
- ⑦森・川から生まれる県産品を活かす

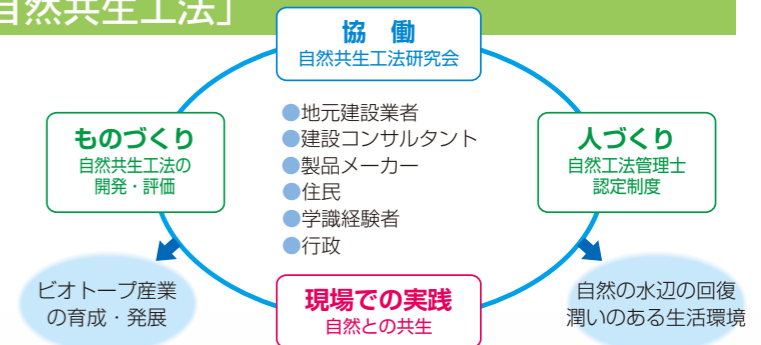
3 清流を伝える

- ⑧清流を学び、次世代へ伝える
- ⑨県民協働による流域活動に参加する
- ⑩岐阜の清流を内外にPRする

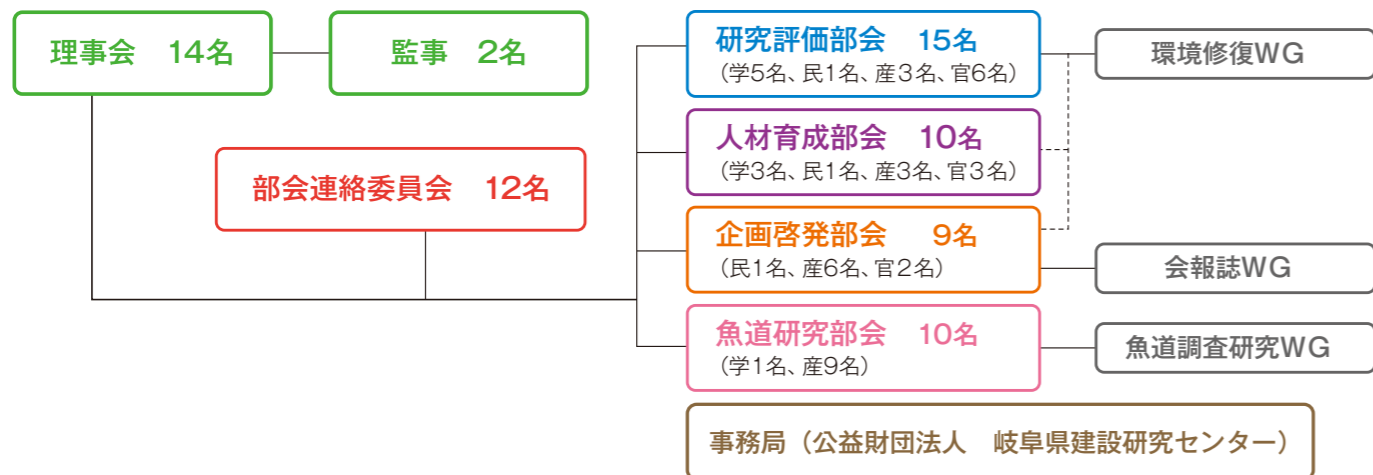


「自然の水辺復活プロジェクト」と「自然共生工法」

自然の水辺復活プロジェクトとは、生物にとって重要な水辺を核に、「産学民官の協働」による「現場での実践」を通じて、「ものづくり」と「人づくり」を進め、岐阜県下における自然環境の保全や復元を図り、潤いのある生活環境を創出する取組です。「自然共生工法」はこれらを実現するための手法で、上述のとおり、本研究会はそれを実践するための手法で、上述のとおり、本研究会はそれを実践するために設立されました。本研究会で培われてきた「自然との共生」に係る手法や方法論が広く県の施策に活かされていくように努力していきます。



組織図 研究会を支える委員会と4つの組織



研究評価部会

自然共生および工法についての調査、研究、助言を行います。基盤整備についての指導、助言を行います。自然共生工法認定制度のあり方や研究の進め方について指導・助言を行います。調査研究助成の審査を行います。

人材育成部会

会員や自然共生に携わる人材の育成を行います。勉強会などの育成イベントの企画・開催を行います。創意工夫等表彰の選考を行います。

企画啓発部会

自然共生思想普及のための啓発事業の企画・開催を行います。会員相互の情報交換・外部への情報発信を行います。会報誌の発行を行います。協賛・助成等の企画・審査を行います。

魚道研究部会

研究会の目的を達成するために行うべき活動のうち、魚道に関することの研究を行います。魚道の機能回復・機能向上の実践的取組を進めています。

部会連絡委員会

部会間の事業の調整を行います。

研究会会員の状況

■会員内訳(2023.5.31現在)

	法人会員	個人会員	計
産業界	164	1,207	1,371
学界	0	10	10
民間	1	13	14
官界	7	83	90
学生	—	4	4
合計	172	1,317	1,489

■会員数の推移

	法人会員	個人会員	合計
H13(2001)	161	331	492
H14(2002)	325	652	977
H15(2003)	351	797	1,148
H16(2004)	358	1,115	1,473
H17(2005)	337	1,294	1,631
H18(2006)	320	1,376	1,696
H19(2007)	300	1,437	1,737
H20(2008)	270	1,447	1,717
H21(2009)	263	1,483	1,746
H22(2010)	248	1,442	1,690
H23(2011)	233	1,424	1,657
H24(2012)	223	1,418	1,641
H25(2013)	217	1,386	1,603
H26(2014)	207	1,383	1,590
H27(2015)	200	1,368	1,568
H28(2016)	196	1,350	1,546
H29(2017)	193	1,338	1,531
H30(2018)	183	1,328	1,511
R元(2019)	179	1,320	1,499
R 2(2020)	177	1,309	1,486
R 3(2021)	175	1,300	1,475
R 4(2022)	172	1,317	1,489

研究会ではこんな支援をしています

◆活動助成・創意工夫支援・自主研究支援

自然共生に関する「活動」「工夫」「研究」を支援するため、3つの制度を創設し、自然共生に取り組む方を応援します。

- ① 共催事業助成制度** 研究会に属する方の団体が開催する各種事業に10万円を上限に支援を行なっています。
- ② 創意工夫等表彰制度** 研究会員が自然共生に関する創意工夫及び地域貢献を実施し、その成果が認められた方に賞状と副賞3万円を上限に授与しています。
- ③ 調査研究助成事業** 県内で調査研究を実施しようとする研究会員に対し、調査研究費の一部を5万円を上限に助成を行なっています。

会員であれば、どなたでも申請することができます。

※詳しくは、研究会ホームページをご覧ください。申請様式をダウンロードしていただくことができます。

◆岐阜県自然工法管理士を応援します。

岐阜県では、自然共生や環境保護活動に携わる県民の意識や知識の向上を図り、自然環境を保全するための人材の育成を目的に「岐阜県自然工法管理士」認定制度を実施しています。研究会は、自己研鑽のための勉強会や情報発信を行うことで、管理士の継続教育などを応援します。詳しくは、岐阜県の管理士認定事業ホームページをご覧ください。

研究会員募集中

本会の趣旨に賛同いただける方でしたら、どなたでも入会していただけます。

- 特典1** 研究会主催の講演会、勉強会等に参加できます。
- 特典2** 自然共生に関する最新情報をお届けします。
- 特典3** 自然共生の活動を行なう仲間と情報交換の場が増えます。
- 特典4** 自然共生に関する活動や研究を支援します。
- 特典5** 岐阜県が認定する自然工法管理士の更新に役立ちます。

自然工法管理士の更新について

岐阜県自然工法管理士は自己研鑽として5年間に10単位を取得する必要があります。5年の間に本研究会に3年以上入会されるとおのずと自己研鑽が進むことから、「5単位」が免除される特典があります。(法人をのぞく)

会費(6月から翌年5月まで)：個人会員 年間 3,000円(学生 1,200円)
法人会員 年間 10,000円

申し込み・問い合わせ先

岐阜県自然共生工法研究会

〒503-0807 岐阜県大垣市今宿6-52-18 ワークショップ24 4階
ソフトピアジャパンエリア内 公益財団法人 岐阜県建設研究センター内
電話・FAX 0584-81-1340 E-mail gifu-shizen@deluxe.ocn.ne.jp
URL <https://shizenkyousei.jp/>



研究会ではこんなことをやっています

通常総会・特別講演

開催日 令和5年6月22日(木)
場所 不二羽島文化センター
スカイホール(羽島市)

特別講演

演題：『ネイチャーポジティブな川づくりに向けて』
講師：(国研) 土木研究所自然共生研究センター
センター長 森 照貴氏



ボランティア長良川清掃活動

開催日 令和4年7月23日(土) 7:00~8:00
場所 長良橋上流左岸河川敷(岐阜市内)
参加人数 100名

美しい川の風景があることを訪れた人々が感じ、楽しい記憶の一つとして残してもらえるように長良川の河川敷清掃を実施しました。



女性優先現地見学会

開催日 令和4年12月13日(火) 9:15~16:10
場所 現地見学(午前)：津屋川水系清水池(海津市南濃町津屋)
現地見学(午後)：羽根谷、さぼう遊学館(海津市南濃町奥条)
意見交換会：さぼう遊学館 学習室

参加人数 14名
概要

ハリヨの生息地として保全されている「津屋川水系清水池(海津市南濃町津屋)」や「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテストの表彰作品の場である「羽根谷(海津市南濃町奥条)」を見学しました。その後、意見交換の場を持ち、自然との共生、環境の保全についての理解を共有するとともに参加者同士の交流を深めました。

清水池では、木曾三川流域エコネット応援団の川口さんの説明から、ハリヨの生息には、湧水や底質などの物理環境ばかりではなく、巣づくりのための水草や水際植生も必要であるという説明があり、植物生育と魚類生息との関わり観の観点も交えた学習ができました。また、下多度発展会の橋本会長の説明から、水面を覆い尽くすように繁茂してハリヨの生息にも影響を与える特定外来生物のオオフサモの除去や津屋川に秋の彩りをもたらしている左岸堤防におけるヒガンバナの保存についても学習しました。

羽根谷では、さぼう遊学館の木村先生から、映像や展示物を見ながら、砂防事業の必要性や命を守る土砂災害ハザードマップや避難などについての講義を頂いた後、登録有形文化財の羽根谷砂防堰堤を見学して、その構造や工学的な機能、歴史的な役割などの説明を受けました。

意見交換会では、民間で自然共生の活動をされている川合理事と清水理事に、木曾三川流域エコネット応援団の川口さんと長崎さんを交えて、環境の保全、自然との共生に関わり始めたきっかけや女性が取り組む意義などについて話し合い認識を深めました。

参加者の方々からは

- ハリヨの生態について学べ、登録有形文化財である重要な施設等をじっくり見学できるので楽しかったです。津屋川はヒガンバナの時期にも来てみたいです。
- ハリヨを文字でみるだけでなく、実物を見て、その周りを見ることで生息環境をより具体的にイメージすることができるようになりました。

等のご意見・ご感想をいただきました。



「清流の国ぎふ」づくり 自然共生工法写真コンテスト

募集期間 令和4年7月19日(火)~8月26日(金) **応募数** 20作品

岐阜県自然共生工法研究会では、県内各地で進められている自然共生への様々な取り組みについて、良い取り組みがなされている事例や、施工後の自然環境の回復・復元が良好な事例について写真を募集し、コンテストを開催しています。

令和4年度は20作品の応募がありました。受賞者の方々には、「清流の国ぎふ」づくり『自然共生』事例発表会において、表彰式を行いました。ご協力ありがとうございました。右の3つの写真は佳作の3作品です。

「清流の国ぎふ」づくり 自然共生工法写真コンテスト



「霧の中の板取川落差工」 板取川(美濃市乙狩) 「秋色の津屋川」 津屋川(海津市南濃町津屋) 「施工後3年を経過した魚道 土岐川 大正堰」 土岐川(瑞浪市土岐町)

植物生育環境・魚類生息環境勉強会

開催日 令和4年12月13日(火) 10:00~11:30
場所 津屋川水系清水池(海津市南濃町津屋)
参加者 申込者 9名

女性優先現地見学会(午前の部)と合同で開催し、清水池や津屋川の現地を確認しながら、植物生育と魚類生息との関わり、特定外来生物のオオフサモの除去、左岸堤防におけるヒガンバナの保存について学習しました。

参加者の方々からは

- ハリヨの生息条件が一般の魚類と違う点が勉強になりました。
- 魚、植物の生態的な内容をもっと詳しく知りたくなりました。

等のご意見・ご感想をいただきました。

魚道に関する調査・研究

開催日・場所 第1回：令和4年8月30日(火) 土岐川 市原用水頭首工魚道他(瑞浪市土岐町)
第2回：令和5年5月18日(木) 和良川 原尻床止工魚道(郡上市和良町地内)

魚道研究部会は、水生生物がすみやすい河川環境を再生・創出する一助として移動の連続性を確保するために、学識者や岐阜県と協働して魚道に関する調査・研究に取り組んでいます。

令和4年8月には、庄内川水系土岐川において、魚道の維持管理後の効果検証として、定置網による遡上モニタリング調査を実施しました。また、令和5年5月には、木曾川水系和良川において、新たな魚道モニタリング調査の試みとして、「光電式遮断センサとカメラを組み合わせた計数装置」を魚道に設置して、今後の遡上状況調査のDXについて検討しました。



会報誌「自然との共生」の発行



vol.44



vol.45

カレンダーの発行

○自然共生工法に関する取り組みについて、より多くの方に知っていただくため、「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテストの入賞作品を用いたカレンダーを作成しています。



研究会の構成

各団体との共催事業

第10回「清流の国ぎふ」づくり「自然共生」事例発表会（岐阜県）

開催日 令和4年11月16日(水) **場所** ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール(岐阜市) **参加者** 144名
自然共生に関する県内外の取り組み事例を「ハード部門」(4事例)と「ソフト部門」(3事例)に分けて発表を行う事例発表会と講演会を開催しました。

事例発表会(表彰)

- ハードの部** ○最優秀賞 「既設河川横断工作物を改良した切欠き魚道設置の検討と実践」
発表者：(国研)土木研究所 自然共生研究センター 林田 寿文氏
- 優秀賞 「環境配慮施設が水田生態系の種の多様性に及ぼす影響」
発表者：岐阜県立岐阜農林高等学校 環境調査専攻班
- ソフトの部** ○最優秀賞 「環境保全の輪を地域に広げる」
発表者：岐阜県立岐阜農林高等学校 環境教育専攻班

特別講演 演題 水防災分野での気候変動適応 流域治水・多自然川づくり
講師 岐阜大学流域圏科学研究センター 准教授
岐阜大学地域環境変動適応研究センター センター長 原田 守啓氏



岐阜県自然共生川づくり勉強会（岐阜県）

自然と共生した川づくりを推進するため、平成22年度から河川を題材とした「自然共生川づくり勉強会」を実施しており、「緑豊かな「清流の国ぎふ」づくり」における施策の1つである「豊かな森づくり・清らかな川づくり」を推進してきました。川づくりを推進するため、平成22年度から河川を題材とした「自然共生川づくり勉強会」を実施しています。

第1回 **開催日** 令和4年10月7日(金) 10:30~15:00
場所 神通川水系川上川(高山市清見町) **参加者** 28名

川上川で実施した河川等災害関連事業(H26災)における当時の設計や施工の考え方について学習するとともに、現場で多自然川づくりの整備効果を確認し、参加者間で意見交換を行い知見を深めました。



第2回 **開催日** 令和5年3月2日(木) 10:00~16:30
場所 木曾川水系水門川(大垣市) **参加者** 14名

新技術である「バーチャルツアー」の基本的な操作や活用方法等の概要について学習しました。水門川周辺で360度カメラ等を用いて撮影した写真を用い、バーチャルツアーを作成し、作成・操作方法等を学習しました。



理事会

会長
藤田裕一郎(学)
(大)東海国立大学機構 岐阜大学 名誉教授

西條 好迪(学)
(一財)自然学総合研究所 顧問・理事

森 誠一(学)
(学)大垣総合学園
岐阜協立大学 地域創生研究所 教授

和田 清(学)
(独)国立高専機構
松江工業高等専門学校 校長

木呂子豊彦(学)
(学)越原学園
名古屋女子大学 非常勤講師

川合千代子(民)
水環境もやい研究所

清水 佳子(民)
天神川を考える会

寺町 茂(民)
環境省希少動植物種保存推進員
農林水産省環境相談員

栗山 貴稔(産)
(一社)岐阜県建設業協会 理事

安江 修平(産)
(一社)岐阜県特殊工事技術協会 代表理事

市橋 政浩(産)
(一社)岐阜県測量設計業協会 副会長

藤田 宏志(官)
岐阜県 環境生活部 次長

飯島 竜二(官)
岐阜県 県土整備部 土木技監

船坂 徳彦(官)
(公財)岐阜県建設研究センター 理事長

監事

力石 克己(産)
(一社)岐阜県測量設計業協会 専務理事

和田 真吾(官)
岐阜県 県土整備部 次長

部会連絡委員会

各部会長及び部会員1~2名

研究評価部会

部会長 藤田裕一郎(学) (大)東海国立大学機構 岐阜大学 名誉教授
副部会長 和田 清(学) (独)国立高専機構 松江工業高等専門学校 校長
アドバイザー 森 照貴(官) (国研)土木研究所 上席研究員 兼自然共生研究センター センター長
部会員 西條 好迪(学) (一財)自然学総合研究所 顧問・理事
森 誠一(学) (学)大垣総合学園 岐阜協立大学 地域創生研究所 教授
原田 守啓(学) (大)東海国立大学機構 岐阜大学 流域圏科学研究センター 准教授
寺町 茂(民) 環境省希少動植物種保存推進員 農林水産省環境相談員
林田 寿文(官) (国研)土木研究所 水環境研究グループ 自然共生研究センター 主任研究員
板垣 修(官) 国土交通省 中部地方整備局 木曾川上流河川事務所 所長
富田 直樹(官) 国土交通省 中部地方整備局 越美山系砂防事務所 所長
古田 一彦(産) (一社)岐阜県建設コンサルタンツ協会
安江 修平(産) (一社)岐阜県特殊工事技術協会 代表理事
西田 昌和(産) 岐阜県コンクリート製品協同組合 理事長
戸田 健吾(官) 岐阜県 県土整備部 建設政策課 課長
真鍋 将一(官) 岐阜県 県土整備部 河川課 課長

人材育成部会

部会長 木呂子豊彦(学) (学)越原学園 名古屋女子大学 非常勤講師
副部会長 加藤 剛(産) (一社)岐阜県建設コンサルタンツ協会
アドバイザー 西條 好迪(学) (一財)自然学総合研究所 顧問・理事
清水 佳子(民) 天神川を考える会
真鍋 昌伸(産) (一社)岐阜県特殊工事技術協会 自然共生技術委員会 委員長
野々村武文(官) 国土交通省 中部地方整備局 中部技術事務所 所長
八田 雅昭(官) 岐阜県 県土整備部 技術検査課 課長
山口 義樹(官) (公財)岐阜県建設研究センター 副理事長
小林 智尚(学) (大)東海国立大学機構 岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授
賀川 真樹(産) いであ株式会社 名古屋支店 環境技術・生態部

企画啓発部会

部会長 栗山 貴稔(産) (一社)岐阜県建設業協会 理事
副部会長 林 秀典(産) (一社)岐阜県測量設計業協会 建コン技術委員長
川合千代子(民) 水環境もやい研究所
松野 守男(産) (一社)岐阜県特殊工事技術協会
大久保清之(産) (一社)岐阜県造園緑化協会 事務局長
栗野 靖浩(産) (一社)全国特定法面保護協会 岐阜県事務所 所長
今村 穂積(産) 岐阜県土木用ブロック協会 副会長
飯島 竜二(官) 岐阜県 県土整備部 土木技監
吉川 尚文(官) 岐阜県 環境生活部 脱炭素社会推進課 課長

魚道研究部会

部会長 森 誠一(学) (学)大垣総合学園 岐阜協立大学 地域創生研究所 教授
副部会長 山口 政徳(産) 大日コンサルタント(株)
増田 治雄(産) 揖斐川工業(株) アイケイコンクリート部
奥田 好章(産) (株)ユニオン
永縄 芳之(産) (株)テイコク
林 哲郎(産) (株)三進
馬淵 剛(産) (株)山辰組
平田 亨(産) (株)興栄コンサルタント
渡部 健(産) 丸栄コンクリート工業(株)
鷺見 拓哉(産) 大同コンサルタンツ(株)

事務局

(公益財団法人 岐阜県建設研究センター内)

(令和5年6月22日現在)